



東京農工大学

学生団体「musset」

＊案内役・3年生

高橋雅大さん 22



子どもたちの理科離れが叫ばれる中、実験などを通して科学の面白さを伝える活動をしています。11月の学園祭では、身近な家電、洗濯、調理のテーマで科学教室を開きました。

私が担当した家電コーナーでは、ドライヤーや冷蔵庫など多くの製品にモーターが使われていることや、モーターを回すことで発電できる仕組みを紹介しました。実際にモーターにつなげたプロペラを回して発光ダイオード(LED)電球を点灯させると、来場した小学生や幼児はとても驚いていました。また、水につけてもんだりこすったりすると、乾燥させてもちぎれにくくなるという羊毛の性質を実演で示すと興味深そうでした。

科学の楽しさ 子どもに伝える



学園祭で子どもたちに科学の面白さを伝えた教室
(11月11日、東京農工大の府中キャンパスで)

教えるため より学ぶ

▲みゆぜつとは2013年、同大の科学博物館長(当時)から学生が館内ガイドを依頼されたことを機に発足した。現在は約20人。博物館は、かつて繊維産業に多くの人材を送っていた同大に残る養蚕や製糸に関する資料、戦前戦後の織機など1万6000点以上を収蔵しており、年間2万人以上が訪れる。活動は館内ガイドから科学教室に広がっていった▼

私は入学時に活動を知り、科学を面白く、楽しく伝えることに興味を持ちました。1年の秋から代表を務めています。工学

東京農工大学 旧内務省が1874年、勸業寮内藤新宿出張所に設けた農事修学場と蚕業試験掛が起源。1949年に東京農工大学として設置された。東京都府中市に農学部、小金井市に工学部があり、学部と大学院で約5700人が学ぶ。

部の機械システム工学科で流体力学を学んでいます。専門分野以外は詳しくないので、羊毛の性質などは科学教室で初めて知りました。

▲科学教室は学内だけでなくとまらない。今年是小金井市の江戸東京たてもの園や江戸川区子ども未来館、科学技術振興機構(JST)のイベントでも開いた。活動に助言している飯野孝浩特任助教(37)は「一つのことを人に教えるには多くの勉強が必要だということに学生たちは気づいていく。小中学生相手に見せ方や話し方を工夫すること、説明力も向上している」と語る▼

科学教室の題材は繊維が中心でしたが、新しい題材をメンバー間で話し合っています。学園祭で披露した家電もその一つです。現在、大学内で開く教室は年3回程度ですが、来年2月から「サイエンスマルシェ」と名付けて毎月行う予定です。実験を見た子どもたちの表情が変わる時が一番うれしいですね。

卒業後は大学院に進むつもりですが、培われる発表力は、自分の研究を社会に伝える上で役立つと信じています。

(聞き手・渡辺光彦)